

# DV被害への包括的支援

共催 特定非営利活動法人 RRP研究会 ・ 武蔵野大学 社会連携センター

DV被害者の支援は、被害女性の支援・ケアだけでは終わりません。いっぽうでDV加害者対応と加害者プログラム実施、父親プログラム実施、DVに曝されて育った子どものケア、さらに被害を受けた母子関係の再構築を試みなければ包括的とはいえないでしょう。

RRP研究会では約10年にわたり、被害者支援の一環としてのDV加害者プログラムを研究・実施してきました。またDVに関する最新のアプローチについて数々のワークショップを開催して参りました。

今回は、2日間のワークショップとして、1日目は被害母子への支援、2日目は被害者支援の一環としてDV加害者に対するアプローチに焦点をあてて研修会を開催いたします。それぞれ1日だけのご参加も可能です。DVへの介入を包括的に学べるまたとない機会に、ぜひご参加ください。

被害母子への支援	被害者支援の一環としてのDV加害者へのアプローチ
6月22日(土) 10:00~17:00	6月23日(日) 10:00~17:00
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンカレント(母子同時並行)心理教育プログラムの実際</li> <li>・それぞれの地域に生かすプログラムの多様な展開</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DV加害者へのアプローチの基本</li> <li>・加害者の変容について考える</li> </ul>

- ◆場所 武蔵野大学 有明キャンパス  
りんかい線「国際展示場」駅より徒歩7分、ゆりかもめ「国際展示場正門」駅より徒歩6分
- ◆参加費 2日間15,000円 1日のみ(各日とも)8,000円
- ◆参加資格 臨床経験のある専門家(臨床心理士、精神科医、ケースワーカー等)
- ◆定員 各日ともに80名程度

## 講師紹介

- ◆信田 さよ子 (原宿カウンセリングセンター所長・臨床心理士)
- ◆妹尾 栄一 (茨城県立こころの医療センター・精神科医)
- ◆春原 由紀 (武蔵野大学大学院教授・臨床心理士)
- ◆ほかRRP研究会メンバー
- ◆高野 嘉之 (ブリティッシュコロンビア州立司法精神医学病院)
- ◆森田 展彰 (筑波大学大学院准教授・精神科医)
- ◆高橋 郁絵 (原宿カウンセリングセンター・臨床心理士)
- ◆武蔵野大学心理臨床センター子ども相談部門スタッフ

本ワークショップは、開催後、「臨床心理士」の教育・研修機会として、財団法人日本臨床心理士資格認定協会に開催日ごとに申請の予定です。承認された場合、同協会より1日ごとに実績2ポイントが認められます。



武蔵野大学  
MUSASHINO UNIVERSITY

—Linking Thinking—

お問い合わせ [sotsugo@musashino-u.ac.jp](mailto:sotsugo@musashino-u.ac.jp)

武蔵野大学 社会連携センター

〒202-8585 西東京市新町1-1-20  
[www.musashino-u.ac.jp](http://www.musashino-u.ac.jp)

		平成25年		月	日
ご希望日		6月22日(土) 被害母子への支援			
		6月23日(日) 被害者支援の一環としてのDV加害者プログラムの展開			
		6月22日・23日両日			
フリガナ					
氏名					
所属					
職種		臨床心理士 登録番号			
連絡先	勤務先 ・ ご自宅 (どちらのご住所か○を付けてください)				
住所	〒				
電話番号		FAX番号			
メールアドレス					
心理・精神科医等での臨床経験年数					年
本ワークショップを何でお知りになりましたか					
通信欄					

特定非営利活動法人 RRP研究会・武蔵野大学社会連携センター共催 専門家対象ワークショップ

## DV被害への包括的支援

RRP研究会では約10年にわたり、被害者支援の一環としてのDV加害者プログラムを研究・実施してきました。またDVに関する最新のアプローチについて数々のワークショップを開催して参りました。

特に2010年に開催した高野嘉之氏【ブリティッシュコロニア州立司法精神医学病院：DV加害者の変化についての研究と実践を行う】とRRP研究会による企画は多くの方から再開催のリクエストをいただいております。このたび、再び高野氏とのコラボレーションの機会を得、更に踏み込んだ企画を提供できる運びとなりました。6月23日のワークショップでは、エクササイズを通して加害者への対応を学ぶとともに、加害者の変化とは何かについて議論の深化をねらいます。夫であり、父でもある加害者についての考察は、直接加害者に関わる臨床家だけでなく、被害母子の支援に関わる皆様にとっても支援の幅をひろげるものとなるでしょう。

DVへの介入を包括的に学べるまたとない機会に、ぜひご参加いただきたく、ご案内させていただきます。